



国立大学法人
豊橋技術科学大学

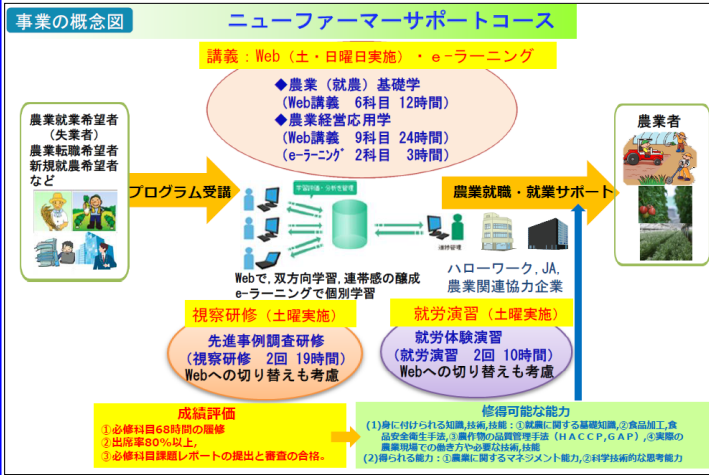
IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター
住所：〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL：0532-44-6655 FAX：0532-81-5108 E-mail：manager@recab.tut.ac.jp

2021年8月15日
No. 81

「ニューファーマーサポートコース」 を開講します

豊橋技術科学大学は文部科学省令和2年度「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業（就職・転職支援のためのリカレント教育プログラム）の開発・実施」に採択されました。本事業ではコロナ禍で増加しつつある愛知県内の失業者（2020年12月完全失業率2.9%）を中心に、非正規雇用労働者及び転職希望者等を対象に、これまでに蓄積した技術科学的な成果と農業人材育成事業の実績を踏まえ、農業への就労をサポートする教育プログラム「ニューファーマー



ニューファーマーサポートコースの概要

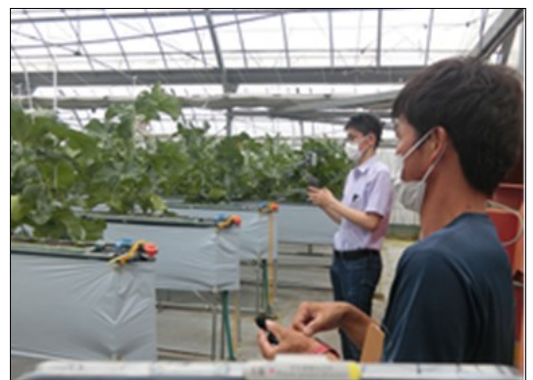
サポートコース」を提供し、新規就農、農業への就職、転職を支援します。

受講期間は2021年8月28日（土）（2022年1月（約5ヶ月）で、農業（就農）基礎学と農業経営応用学の履修により、就農に必要な基礎知識を修得させ、さらに先進事例調査研修と就労体験演習を通して、働く現場において、自ら考えることができる人材の育成を目指します。募集人数は30人で、新型コロナウイルスの安全対策のため、先進事例調査研修と就労体験演習以外は、全てリモートでの講義を行う予定です。（文責：山内高弘）

第1・2回先端施設・先端IT農業 研修をオンライン中継で実施

当センターでは、4月～7月に植物工場マネージャー9期生およびIT食農先導士（土地利用型）5期生の先端施設研修・先端IT農業研修を計画していましたが、しかし、新型コロナウイルスの感染リスクの高い状況が継続する中で、バスによる視察は困難になり、その代替として、スマートフォンによる中継視察を実施しました。

6月26日（土）が、トヨタネ（株）研究農場・トマト、キュウリ等の栽培及び環境制御機器等、（株）ジュングリーン・富田雅則氏（6次化2期生、植マネ5期生）・マスクメロン、イチゴの栽培等、7月3日（土）が、（公財）功農支援会・トマト、ネギの栽培、（株）安田商店・ベビーリーフ栽培をオンライン中継し、双方で質疑応答を行うことで実施しました。当日は、中継にもかかわらず、説明者に対して、受講生による熱心な質問がなされました。（文責：山内高弘）



（株）ジュングリーンの
中継視察風景

第3回先端施設・先端IT農業研 修・施設園芸・植物工場展を視察

7月14～16日に第3回先端施設・先端IT農業研修を実施しました。今回は、Arch Sky Expo（愛知県国際展示場）で開催された一般社団法人日本施設園芸協会主催の施設園芸・植物工場展（GPEC2021）を視察しました。

通常は隔年東京で開催されているGPECですが、東京オリピックの会場使用のため、初めて愛知県で開かれました。施設園芸・植物工場に特化した唯一の専門展示会で、約100の企業、団体が出展し、開催中は業界有識者、優良生産者による多彩なテーマのセミナー、出展者によるプレゼンテーションが行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、各自1日を選び来場する自由視察形式となりましたが、受講生たちは積極的に各展示を訪れ、担当者に積極的に質問したり、セミナーを熱心に聴講していました。また、セミナーで



施設園芸・植物工場展
(GPEC2021)

は、植物工場マネージャー8期生の越川千尋氏が「施設園芸の輪ギクにおける環境制御とその評価」と題して、IT食農先導士3期生の下村堅二氏が「JA西三河きゅうり部会のスマート農業への取組」と題して講演を行いました。(文責：前田紀子)

課題研究計画検討会を実施

7月17日(土)に課題研究計画検討会をオンラインで実施しました。植物工場マネージャー9期生11名、IT食農先導士(土地利用型)5期生6名が参加しました。例年、夏期宿泊研修で実施してきた課題研究計画検討会ですが、今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Google Meetを使っての実施となりました。受講生は1人1研究課題を設定し、「なぜその研究に取り組むのか」、「研究の目的」、「実験方法」、「予想される結果」等を報告しました。4月から

研究の準備を進めて順調に進んでいる受講生、まだ計画段階の受講生と課題研究の進捗状況は様々ですが、この検討会を終え来年2月の発表会に向けて本格的に研究がスタートしました。(文責：熊崎忠)

季節の花 サルスベリ

学名：Lagerstroemia indica

サルズベリ(百日紅)は、ミソハギ科サルズベリ属の夏から秋まで長く開花する落葉樹です。花色は濃ピンクや淡ピンク、赤、白、紫、複色など沢山の色があります。サルズベリの特徴は木の肌にもあります。サルズベリの樹皮は剥がれ落ちると白い木肌が見え、その部分はとてつるつるしています。この木肌はサルが木に登ろうとしても滑って落ちてしまいそうなことから「サルズベリ」と名付けられました。



サルズベリの花

ことも大切です。定植は、4月から5月と9月が適期です。もともと暖かい地域の樹木なので、定植後の発根に必要な土の温度が下がらない時期を選びます。移植や鉢植えの植え替えは3月から4月が適期です。庭植えの場合、定植してから1年未満の株や鉢植えは、土の表面が乾いたらたっぷり水を与えます。鉢植えでは、夏場の水切れは開花や花もちに影響するので注意します。庭植えで根づいた株は、水やりの必要はありません。2月ごろに寒肥(基肥)として有機質肥料を株元の周辺に埋めておけば、他の時期の施肥は必要ありません。なお、咲き終わった枝先を早めに切り戻すと、再萌芽した枝先に再び開花します。混み合った枝は生育期でも間引いて風通しをよくしましょう。落葉期に伸びた枝を切り戻し、樹形を整えます。(文責：山内高弘)

旬の食べ物 ユウガオ

学名：Lagenaria siceraria var. hispida

英名：Bottle gourd

ユウガオ(夕顔)は、北アフリカまたはインドを原産地とする蔓性のウリ科ユウガオ属の一年草です。実の形によって細長い「ナガユウガオ」と、丸みを帯びた球状の「マルユウガオ」とに大別されます。ユウガオという名前は、白い花が夏の夕方咲き、翌日の午前中にはしぼんでしまうことから、アサガオ、ヒルガオ、ヨルガオに対して名付けられ

ました。しかし、アサガオ、ヒルガオ、ヨルガオはいずれもヒルガオ科の植物であり、直接の類縁関係はなく、ヨルガオがユウガオと呼ばれることもありません。ユウガオと同一種にヒョウタンがあります。ヒョウタンは苦味の成分であるククルピタシン類を多く含み、食用には向かず容器などに用いられます。この苦味(ククルピタシン類)の少ない品種が食用として選別されたものがユウガオです。ユウガオはトウガン(冬瓜)と同じように調理して食すほか、かんぴょう(干瓢)に加工して食用とします。かんぴょうに加工されるのは主にマルユウガオです。ユウガオの主な産地は、かんぴょうの生産が盛んな栃木県で、収穫時期は7〜9月となります。(文責：熊崎忠)



ユウガオの実

(一般社団法人下野市観光協会のホームページ
[http://www.shimotsuke-ta.com/] から引用)